VIEW

No.119 Jul 2018

CONTENTS

インタビュー
「“共創の器” のデザイン
『一般社団法人 渋谷未来デザイン』設立支援を通じて」 2

勉強会
「持続可能な資本主義
－ 誰かの犠牲で〇〇する社会を終わらせよう－」
［講師］鎌倉投信 取締役 新井 和宏 氏 6

旅する研究員
「王室の別荘地 ホアヒン」 7

渋谷

Interview

インタビュー

“共創の器” のデザイン
「一般社団法人 渋谷未来デザイン」設立支援を通じて

成長期のまちづくりは行政が主導する形が一般的でしたが、日本社会が成熟期を迎え、企業や大学、住民、NPO など、様々な主体が垣根を超えて協働するまちづくりの取組みが増えています。「アーバンデザインセンター」「都市コンソーシアム」「まちづくり協議会」などタイプは様々ありますが、多様な主体が空間・体験・価値などを共に創りだしていく場であるという点では共通しています。私たちはこれを “共創の器” と呼び、その研究やデザインを進めています。そうした中、“共創の器” の進化形とも呼ぶべき産官学民連携組織「一般社団法人　渋谷未来デザイン」が、2018 年 4 月に渋谷において設立されました。日建設計総合研究所（NSRI）は当法人の設立支援を行いましたので、その一部についてご紹介します。なお、日建設計は当法人の参画パートナーです。

「一般社団法人 渋谷未来デザイン」の設立支援

小林　「一般社団法人渋谷未来デザイン（FDS：Future Design Shibuya）」の設立をお手伝いしたそうですが、まずは FDS がどういった組織なのか教えてください。

渡部　FDS は、『渋谷の可能性から世界の未来をつくるイノベーションハブ』となるべく設立された、産官学民連携組織です。渋谷区のビジョンである『ちがいをちからに変える街』を、渋谷に集まる多様な個性とともに実現する場でもあります。

左｜松縄研究員　右｜渡部主任研究員

当社の FDS 設立支援業務のメンバー

渋谷は、「才能やアイデアを持った人の豊かさ」において世界有数です。この才能やアイデアを産官学民の領域を超えて収集し、社会課題の解決や、新しい価値を生み出すような「事業」へとデザインし実行に移していく組織です。また、渋谷の発信力を活かして、その成果を世界へと提示することで、渋谷区のみならず社会全体の持続的な発展につなげることを目指しています。

小林　FDS は具体的にはどのような取組みを行っていくのですか。

松縄　FDS は、行政機関だけでなく、企業、大学、NPO、そして、「渋谷民」と呼ばれる、渋谷に住む人、働く人、訪れる人など、多種多様な人材がこれまでにない仕組みで協働し、新た

な価値を生み出し、人々の生活をより豊かにすることを目指しています。

その実現に向け、FDS は５つのデザイン事業を掲げています。「都市の体験デザイン」、「都市の空間価値デザイン」、「市民共創の事業デザイン」、「都市のブランドデザイン」、「都市間・大学連携事業デザイン」です。

具体的な事業内容として、既に「都市のパブリックスペースデザインコンペ」や「SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA」、「広島県AI/IoT 実証プラットフォーム事業」「Wi-Fi を活用した地方創生ビジネスモデルの実証」などがプレスリリースされています。今後も順次発表されていく予定ですので、FDS のホームページをご確認いただければと思います。

新たなまちづくり組織の体制づくり

小林　FDS 設立に際し、NSRI はどのような役割を担ったのですか。

松縄　まず、各分野の専門家を集めたプラットフォームの構築を支援しました。具体的には、意思決定機関である理事会や、事業執行機関である事務局、様々な分野の専門家であるフューチャーデザイナーのメンバーをどのような方にお願いするのかを、渋谷区の方々とともに検討し、参画していただくための支援をさせていただきました。結果として、事務局は、ブランディング、観光、地方創生、ICT、都市、行政などの幅広い分野の専門家が集まる体制となりました。ただし、私たちが行ったのはあくまで側面支援で、これだけの体制になったのは、渋谷区の強いリーダーシップがあったからこそです。

FDS パンフレット

また、「何のために、どのような事業を行っていくのか」という部分を、現在 FDS 事務局にいらっしゃる方々と議論を重ね、その枠組みを構築しました。その際、様々な分野の専門家が集まっているという強みを活かして、柔軟に分担や連携をしていきました。私たちは、「都市の空間価値デザイン」や「市民共創の事業デザイン」の事業領域を中心に、可能性検討を進めました。

事業化に向けた検討は、すでに FDS 事務局へとバトンタッチしています。

“共創の器“のデザインに向けて

小林　　渡部さんは FDS の他にも、様々な地域で多主体協働のまちづくり組織の活動に関わっているそうですが、それについても教えてもらえますか。

渡部　　FDS の設立支援もそうなのですが、近年、「アーバンデザインセンター」「都市コンソーシアム」「まちづくり協議会」など、様々なタイプの産官学民連携プラットフォームへの支援機会が増えました。そのような中で、都市や地域の活性化を進めていく際における『地元の本気度』と『外部リソースの柔軟な導入』の重要性を日々感じています。

事業実施には、人材・場所・資金・信用などのリソースが必要ですが、地元にあるリソースを集めるにあたって、最終的には『地元の本気度』が試されるのだと実感しています。例えば、行政・自治会・商店会・地元大学・地元企業の上層部の方々が、リソース確保に向けた交渉や調整に、その貴重な時間を割いていただけるか、などが勝負の分かれ目になってくるのだと感じています。

一方で、このリソースは地元だけで内部調達することが難しい場合があります。　渋谷の場合は、多くのリソースを内部調達できる比較的恵まれた環境にあると思うのですが、地方都市などの場合は、域外から外部調達する必要が出てきます。

ここは、コンサルタントに期待される部分でもあり、私たちはその期待に応えるべく、様々な専門領域への知見・経験を深めていくことや、様々な専門家とのネットワークを構築していく必要があるのだと感じています。

今後の取組みについて

小林　　今後、NSRI として、または、個人として、取組んでいきたいことはありますか。

松縄　　今回の FDS の設立支援を通じて、新たな領域でのチャレンジにおいては、そこに参

左｜松縄研究員　中｜渡部主任研究員　右｜小林研究員

画する個人のスキル・ノウハウの高さとネットワークの広さが、取組みを大きく加速させることを身をもって感じました。私個人としては、一人のプロとして自らの専門性に磨きをかけていきつつ、まちづくりとは一見関係のないような分野にもアンテナを張り、外部との接点を生み出していけたらと考えています。

渡部　地域ごとの特性を見極め、“共創の器“の組成や運営を支援をしていきたいです。また、“器“のメンバーとして参画し、リスクと責任を負いながらチャンスをつかんでいくような機会も増やしていければと考えています。

“共創の器“は、法人組織以外にも、行政や企業との共同による社会実験や研究なども含まれています。幸い、NSRI には創造的な活動を後押しする制度（研究費助成・活動への評価など）があります。想いが強くアイデアの質が高ければ、スピード感を持って実行へと移せる環境にあるので、「うまく会社を使ってやろう」と日々企んでいます。

渡部 裕樹｜わたなべ ゆうき
主任研究員

専門分野：都市ビジョン、都市計画、都市開発、エリアマネジメント、共創の器のデザイン

息子がサッカーを始めました。息子と練習をすることや、再放送が始まった「キャプテン翼」を見ることが日々の楽しみになっています。サッカー同様、チームプレーを大切にしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

松縄 暢｜まつなわ みつる
研究員

専門分野：都市計画、都市開発、都市・地域政策の経済評価

専門は、まちや政策を客観的な立場から分析し都市計画につなげることですが、まちをより深く知るには「まちに入り込む」視点が重要だという思いから、暇さえあればまちに繰り出し、実際にまちを使い、まちを楽しむ姿勢を大切にしています。

インタビュアー
小林 綾｜こばやし あや
研究員

取材・撮影場所　SUZU CAFE - jingumae -

Study Session

勉強会 日建設計総合研究所が日建グループ向けに開催する勉強会をご紹介します

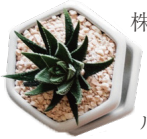
持続可能な資本主義
ー 誰かの犠牲で〇〇する社会を終わらせよう ー

[講師] 鎌倉投信 取締役 新井 和宏 氏

従来とは違った、有益性より社会性を重視する発想で投資信託事業を進めていらっしゃる、鎌倉投信の新井和宏氏にご講演いただきました。

新井 和宏 氏
鎌倉投信 取締役

古くからの商売の極意に『三方よし』という言葉があります。三方とは “売り手”、“買い手”、“世間” を指しますが、鎌倉投信では、三方のみならず、『八方よし（社員、取引先、株主、クライアント、地域、社会、国、経営者）』を求め、高いリターンばかりを追求する利益追求型ビジネスモデルではない、八方よい “いい会社 “であることが重要な投資判断とされています。



利益追求のため、無限に効率だけを追求する今の資本主義に永続性はないとする新井氏の姿勢に、NSRI が追求する持続可能なまちづくりに通ずるものを感じました。また、新井さんご自身も鎌倉市をはじめとする地域のコミュニティやまちづくりに関与されておられ、資産運用のお立場から幅広い活躍をされています 。

新井氏は、住友信託銀行（現 三井住友信託銀行）、バークレイズ・グローバル・インベスターズ（現 ブラックロック・ジャパン）にてファンドマネージャーとして勤務後、2008 年に鎌倉投信株式会社を仲間と共に創業されました。

2010 年からは投資信託「結い 2101」の運用責任者として活躍されています。「結い 2101」は、社会性についても重視し、投資先企業をすべて公開するなど、従来にはない投資商品でありながら、18,000 人を超える個人投資家を集め、純資産総額も 360 億円超（2018 年 5 月時点）を集めています。

NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀（2015 年 5 月 11 日）」にご出演、『投資は「きれいごと」で成功する』（ダイヤモンド社、2015 年）など多くの著書があります。

勉強会企画者
山村 真司 ｜やまむら しんじ
上席研究員

建築やまちづくりにおいて、快適性や安全・安心を求め、低炭素で環境に配慮することはとても重要です。しかしその実現には、資金をどのように調達するのか、持続可能な経済性をどう確保するのかは正解がなく、頭を悩ませる課題です。

今回のご講演の知見を踏まえ、対象とするまちづくりの規模や内容に応じた持続可能なマネタイズの在りようを見出すべく、役立てていきたいと考えます。

旅する研究員 出張で訪れたまちをご紹介します

王室の別荘地 ホアヒン

経済発展が続いているタイでは、温室効果ガス排出量削減に向けた取組み意欲が高く、地域レベルで効果的に削減するための制度設計を進展させています。低炭素まちづくり実現に向け、今回はリゾート型都市ホアヒンのまちを視察してきました。

ホアヒンの海岸

ホアヒン駅の待合室

ホアヒン駅

路地

日本でよく知られているタイのビーチリゾートといえば、プーケット、サムイ、パタヤですが、バンコクの南西約 200 km、タイランド湾に面したホアヒンは、タイ王室の保養地として古くから発展した由緒あるリゾート地です。

バンコクからは、バス、鉄道等の公共交通機関を利用して訪れることができます。鉄道開通は 1911 年。ホアヒンの駅舎は、赤と白を基調とした可愛らしい造りが印象的で、「タイで最も美しい鉄道駅」として知られています。プラットフォームには、かつて王室が使用していた専用の待合室が残されています。現在は使用されていませんが、貴重な歴史資料として保存されています。

市内は、落ち着いた街並みが形成されています。路地を入ると、リーズナブルで美味しいタイ料理を朝からいただけます。一方で、ナイトマーケットも有名。洋服や工芸品などのお土産類や、食べ物を売る屋台が並び、毎夜賑わっています。

路面店

タイ麺

白い砂浜が続くビーチでは乗馬が、また名門コースでのゴルフなども楽しめるホアヒンに、ぜひ一度足を延ばしてみてはいかがでしょうか。

村井 美由紀｜むらい みゆき
研究員

専門は環境配慮型の都市計画。行き慣れたいつもの場所も、少し道を変えて歩くだけで新たな発見があります。そこから見える景色、雰囲気のいいお店や空間、生活感…そんな些細な楽しみをもつ時間を大切にしていきたいです。

VIEW No.119 Jul. 2018 企画・編集・作成・発行者 日建設計総合研究所 NIKKEN SEKKEI RESEARCH INSTITUTE 発行日：2018年7月2日

編集後記

VIEW No.119 Jul 2018

王室の別荘地ホアヒン。これほど立派でなくてよいので、週末自然の中でアウトドアを楽しみながらゆっくり過ごせる場所が欲しいなあと最近思っています。会社から離れた生活は定年まで待つしかないと思っていましたが、世の中少しずつ変わりつつあり、働く場所も自分で選べる時代になりました。

NSRI では、効率よく場所や時間を選択しながら仕事ができるよう、在宅勤務を含むテレワークを導入しています。ICT を使い、少しずつワークスタイルを変えていくことで、金曜日から月曜日まで別荘で過ごし、週の半ばは賑やかな都会で過ごす、そんなライフスタイルが夢ではなく実現できそうだと楽しみになってきました。

担当：日建設計総合研究所　VIEW 編集部
お問合せ：webmaster_ri@nikken.jp